

Direct-Information of Orienteering in Nippon

(公社) 日本オリエンテーリング協会 理事会・事務局便り



第 50 号 (2025 年 4 月 11 日発行)

早いものでこの理事会・事務局だよりも第50号となりました。SNS のような即時性はありませんが、皆さまに当協会の活動をより深く知っていただくツールとして充実したものとなるよう、今後も努めてまいります。

本号の内容

- ・ デフリンピックに向けた強化合宿を開催、秋篠宮皇嗣妃殿下もご参加
- ・ MTBO JAPAN Team 近況
- ・ アジアオリエンテーリング協会 会長インタビュー
- ・ 2023~6 年度 中期事業計画に対する中間自己評価
- ・ 「100 キロコンペ」申請料改定のお知らせ
- ・ 今後の公認大会・講習会のお知らせ

●デフリンピックに向けた強化合宿を開催、秋篠宮皇嗣妃殿下もご参加 (副会長:村越真)

2月15・16日、静岡県富士市の丸火自然公園周辺で行われたデフリンピック出場を目指すデフ選手の合宿が開催されました。これまでも、ヘッド・コーチであるフェッテル・ヨルクさん、コーチの落合公也さん、朝間璃衣紗さんにより練習場面が設定されてきましたが、合宿形式も3回目となりました。1日目には全日本チャンピオンの稲毛選手を特別コーチに迎え、会議室で地図を見ながら対話形式での振り返りをしたことなど、選手にとってよい向上の機会となりました。

オリエンテーリングとデフアスリートの活動に関心を寄せられている秋篠宮皇嗣妃殿下にも合宿1日目への参加をご案内したところ、お越しくございました。富士山麓の森でのオリエンテーリングを楽しまれた他、デフ選手と手話にて歓談され、特別コーチとデフ選手の振り返りにもご同席いただきました。デフ選手にとっても、印象深く、励みとなるキックオフ合宿となりました。



●MTBO JAPAN Team 近況 (MTBO 委員会)

MTBO JAPAN では、例年パンフレットを作成しています。今年度のものでできあがりしました。インカレ他オリエンテーリング大会、MTB やシクロクロス大会の会場で配布しています。

今年の MTBO 世界選手権大会は、8月11日~16日、ポーランドワルシャワにて開催。

日本代表選手選考会の日程は5月24・25日に岐阜県中津川市、6月14・15日に三重県津市で開催です。

詳細情報は、近日中に Facebook 等でアナウンス予定です。

新しいチャレンジに向けて一緒に走る選手を募集中！

下記 URL より全体がご覧いただけます。

<https://www.orienteering.or.jp/archives/direction50/>



●アジアオリエンテーリング協会 会長インタビュー（事務局）

2024年12月、タイでのアジア選手権に合わせて、第1回のアジアオリエンテーリング協会(Asian Orienteering Association、以下 AOA)の総会が開かれました。そこで初代の会長として、当協会副会長の村越氏が選出されました。

過去の理事会・事務局だよりも AOA についての記事を掲載しましたが、今号では協会発足の経緯や今後の展望などについて話を伺いました。

参考： 2024年2月 [Direction 43号](#) 「アジアの動きについて」
2025年2月 [Direction 49号](#) 「アジア協会総会報告」

アジア協会設立までの経緯について教えてください。

もともと、IOF が地域の発展にコミットしはじめた際に、地域の課題を議論する場として Asian Working Group(AWG) が IOF の中に設置されていました。2000年代半ばだったと思います。それまで APOC(アジア環太平洋選手権)と呼ばれていたものを、IOF の地域区分に従った選手権である AsOC(アジア選手権)にすることを議決したり、その後の AsOC の開催国を調整するといった役割を AWG は担ってきました。ただ決定権限はないんです。そこが中途半端でした。

ちょっと裏話をすると、当時までは IOF も地域連盟ができることを望んでいなかったのです。これはある意味ヨーロッパ中心な考え方です。だって、ヨーロッパ連盟ができたって、実質ミニ IOF ができるのと一緒でしたから。その後 IOF も地域発展の重要性を認識するようになって風向きがかわりました。たとえば、アジア大会にオリエンテーリング種目を採用してもらおうとすると、アジアを統括する団体があつた方が働きかけもしやすいです。AWG なんて外からみたら何の意味もないですから。

そんなこともあって、4年前だったと思いますが、日本から「アジア連盟を設立しよう」という提案を上程しました。当時 IOF 理事だった香港のドミニクも IOF の考えを探ってくれたし、すでに地中海連盟というのができていました。じゃあ行けるだろうってことで、2023年の春ごろから準備を進め、定款をどうするか、事務局はどこにおくか、などといった課題を一つ一つ解決し、ようやく設立にこぎ着けました。最終的に名称は AOA: Asian Orienteering Association (アジアオリエンテーリング協会)となりました。

加盟国と、これから参加が期待される国を教えてください。

加盟国は、日本の他、大韓民国、香港、中国、タイ、台湾、シンガポール、カザフスタン、インドネシア、キルギスタンです。IOF に加盟しているアジアの国はもっとあるのですが、AOA 設立の議論のテーブルにはついていませんでした。まあ反対ということではないと思いますが、まだ加盟していない国、たとえば朝鮮民主主義人民共和国やマレーシア、インドの連盟などに加盟してもらい、最終的には IOF に加盟する全てのアジア諸国に加盟してもらうのが目標です。あと、マカオなどは IOF の加盟連盟ではないのですが、AOA の定款上は準加盟できることになっています。こういう国・地域も取り込んでいきたいです。

アジア協会のこれからの課題と展望について考えることは？

課題はたくさんあります。組織としては動き始めたばかりですから、規程類の整備も必要です。またアジアではオリエンテーリングはまだまだ発展途上なので、適切な大会が開催されるような指針づくりが必要です。もちろん、国際ルールはありますが、複雑すぎるし、その全てがすぐに重要性を持っているわけではないので、教育的な要素を持った技術的なガイドラインも必要です。またそれらを普及するための講習会なども開催していく必要があるでしょう。これらの活動を下支えする広報やスポンサーの獲得なども重要だと思います。

大会としては、これまでも行われてきた Asia Cup を継続かつ充実して実施することにしています。前回男子は谷川選手がとりましたが、今回(2024年)は香港選手でした。いいことだと思います。スキーOについては日本だけでなくカザフスタンも乗り気ですので、アジア選手権をスタートさせたいと考えています。

大きなところ言えば、アジアにおけるオリエンテーリングのプレゼンスの向上とともに、究極的にはアジア大会入りを目指すこと、そのためのアジアオリンピック評議会(Olympic Council of Asia)との共同が必要でしょう。このあたりは中国協会の強みなので、彼らのイニシアティブにも期待したいところです。

アジアは環境的にも気候的にも元々のオリエンテーリングに向いていないことは明らかです。スプリントやラピンス O といった種目の開発や普及で、オリエンテーリングをグローバル化するのはアジア地区だからこそできることだと思います。

日本がアジア協会に貢献できる・期待されていることは？

設立の過程では、ここには書けないような駆け引きもいろいろありました。これまで、アジアでオリエンテーリングを継続的かつ組織的に発展させてきたのは日本と香港です。しかし、中華系の連盟なりの難しさがあります。組織的にも選手層、大会という点でも確立しており、ある意味政治・外交的にも利害が絡まない日本には大きな期待が注がれています。設立時に役員候補を擁立するかどうかで香港に打診した時も、「日本と歩調を合わせるよ」と言ってくれました。シンプルな返信の中に、日本への信頼が感じられました。

具体的などころでは、今回タイのアジア選手権では、技術的には日本と香港がほぼ同等にサポートして成功に導きました。第一回のアジア選手権(韓国)がほぼ日本のサポートで行われたことを考えると、着実にアジアでの相互協力の動きが進んでいます。ASEAN 間での協力も盛んです。一方で発展途上ならではの大会の質や選手層の問題もあります。それらの諸国に対して、よきモデルを見せるとともに、昔流の「指導者」的ではなく現代の「コーチング」的に支援することが期待されているといえるでしょう。

個人のレベルで言えば、ぜひ他のアジア諸国でのオリエンテーリングに興味を持っていただき、旅行ついででかまわないので、それらの国でのオリエンテーリングを楽しんでください。そしてできればコミュニケーションをとって、友達を作ってください。ここに至るまでの 20 年、私の自負としては、香港のパトリックと交友関係を持ち、様々な交流事業を行い、彼らの中国返還に寄り添いながら国際大会を SEA として支援し、相互の信頼関係を築けたことがあります。そんな人的つながりはスムーズな協会設立をもたらした要因の一つだと思います。組織のつながりも要は人のつながりです。そんな関係づくりを広げたいですね。

●2023～6 年度 中期事業計画に対する中間自己評価 (副会長 愛場)

JOA の中期事業計画については、自己評価を、2 年後、4 年後に行うことになっており、この度「2023～6 年度中期事業計画に対する中間自己評価」を公開致しました。概要は以下の通りです。詳細は下記 URL をご参照ください。

<https://www.orienteering.or.jp/joa-about/works/>

【総括】

継続的に行っている事業については、大きな問題なく引き続き行えている。新規の事業として、デフリンピックをきっかけに、障害者スポーツへの関与が見えてきた。評価すべき点としては、国際関連での活動(国際大会・アジア連盟設立)、主催大会の活性化、財務管理の改善が動き始めたこと、などが挙げられる。一方、地方会員の活性化や指導者の養成などについては、努力はしているが十分な成果は得られていない。また、項目に挙げたが現実的には不可能なことが判明したものもある。次期の目標設定においてはこのようなものは除外し、網羅的ではなく重要度に応じた事業計画を立てるのがよいのではないかと思われる。

●「100 キロコンペ」申請料改定のお知らせ(事務局)

昨今、郵送料の値上げや人件費の上昇等もあり、コストの負担が以前よりも大きくなっております。

弊協会では「100 キロコンペ」申請料について永年に渡り価格維持に努めてまいりましたが、さすがに現行の料金体系を維持するのが困難な状況となりました。

そこで、誠に不本意ではございますが、申請料の改定を実施させていただきたく存じます。つきましては2025年4月1日申請分より以下の料金といたしますので、ご案内申しあげます。

「100 キロコンペ」申請料 改定:500 円/1 件

皆さまには大幅な負担増になりますことを大変心苦しく存じます。何卒、余儀ない事情をご理解いただき、今後とも変わらぬご高配を賜りますようお願い申し上げます。

●今後の公認大会・国際大会・講習会のお知らせ(事務局)

2025年

5月3日	OLC ルーパー50周年記念大会	(岐阜県)
5月24-25日	ナビゲーション講習(ゴールドレベル)	(埼玉県)
7月5-6日	ナビゲーション・インストラクター養成講座	(静岡県)
8月26-31日	AsJYOC2025 アジアジュニアユース選手権	(愛知県)
9月10-20日	イベントディレクタ認定試験	
10月4日	第14回全日本オリエンテーリング選手権大会(ミドル・ディスタンス競技部門)	(栃木県)
10月5日	第52回全日本オリエンテーリング選手権大会(ロング・ディスタンス競技部門)	(栃木県)
10月19日	ねんりんピック岐阜 2025 オリエンテーリング併設 JOA 公認大会	(岐阜県)
11月9日	第34回全日本リレーオリエンテーリング大会	(滋賀県)
11月15-25日	東京 2025 デフリンピック	(東京都)

2026年

2月28日-3月6日	WUSOC2026 スキーオリエンテーリング世界選手権	(北海道)
------------	-----------------------------	-------

2027年

5月21-29日	WMOC2027 マスターズ世界選手権	(兵庫県)
----------	---------------------	-------

以上